

2022年度 事業報告書

社会福祉法人 NHK厚生文化事業団

2022年度 事業概要

NHK厚生文化事業団では、2022 年度も新型コロナの感染拡大が断続的に続き、事業収入の確保が厳しい状況にあるなか、開催方法を工夫しながら個々の事業を実施しました。

まだコロナの影響が残っており、長年続けてきた体の不自由な子どもたちのキャンプを今年度も中止にしましたが、全体としては概ね計画通りに事業を進めることができたと考えています。

NHKやNHKグループ各社をはじめ、さまざまな団体と協力しながら事業を展開し、有益な福祉情報の発信・提供を進めることで社会福祉の増進に貢献しました。

大阪に置いていた近畿支局は、計画通り 2022 年度末で閉所しました。長年お世話になった関係者にもご理解をいただけるように、理事長自ら大阪に行き説明と、引き続きのご支援をお願いしました。支局がなくなっても、東京から全国に向けてサービスを展開するように心がけていきます。

○障害者福祉事業

NHKと連携した「NHKハートフォーラム」を、関心の高い発達障害をはじめ、NHKのキャンペーンにあわせて「子どもの自殺防止」「虐待からの脱出」など幅広いテーマで開催しました。

教育研修、子どもの発達相談会やハートカフェなど、対面での事業もいくつか実施でき、フォーラムもオンラインだけでなく、会場参加型も再開しています。

障害の当事者、支援する人たちの体験作文を募集する「障害福祉賞」は、NHKの番組と連動しながら例年通り開催しました。

パラリンピアンが小学校を訪ねて、子どもたちに障害者スポーツを体験してもらう「パラリンピアン教室」は、コロナの影響で一部実施時期を変更しましたが、計画通り 6 回開催しました。今年度は首都圏のほか、広島や香川でも開催しました。

○高齢者福祉事業

6 回目となった「認知症とともに生きるまち大賞」では、NHKと連携して、これまでの受賞団体などが参加したフォーラム「認知症バリアフリーサミット」を開催し、この模様はNHKスペシャルで放送されました。

このほか、がんや心臓病をテーマにしたフォーラムも開催しました。

○福祉情報提供事業

基幹事業のひとつ「福祉ライブラリー」では、NHKの福祉番組や事業団制作の福祉ビデオ教材などの貸し出しを行い、様々な需要に応えました。

福祉ビデオ教材はJKAから補助金を得て制作しており、今年度は「LGBTQ+」をテーマに取り上げ新作しました。

○チャリティー事業

NHKホールの建て替えなどで前年度実施できなかった N 響第9チャリティーコンサート、新型コロナの感染防止などの観点から前年度直前で中止となった NHK 福祉大相撲を今年度は開催することができました。

目 次

1. 障害者福祉事業	1
2. 高齢者福祉事業	6
3. 福祉情報の提供事業	9
4. チャリティー事業	1 2
5. その他の支援事業	1 3
6. 広報活動	1 7
7. 内部統制の整備・強化とコンプライアンスの徹底等	1 8
8. 後援・協賛した事業	1 9
9. 寄付金	2 0
1 0. 賛助会員・維持会員等.....	2 1
1 1. 役員	2 3
1 2. 2 0 2 2年度末常勤総数	2 4

1. 障害者福祉事業

(1) NHKハートフォーラム

発達障害をはじめ、NHKのキャンペーン・プロジェクト等との連動や、当事者研究から探る共生社会などのテーマについて取り組み、NHKとの共催によるNHKハートフォーラムとして7回開催した。

6月11日（土） 京都・京都市

「SDGs理念“誰ひとり取り残さない”社会の実現
～困りをかかえる発達障害の人たちから考える～」

参加者：313人

11月3日（木祝）大阪・大阪市

「発達障害の子どもへの理解と支援 ～小学校英語の学び方～」 （インスタ配信試行）

参加者：433人（会場：177人、インスタ：266人）

6月4日（土） 東京・渋谷区

「虐待を乗り越えて～18歳まで自宅で軟禁されていた私から～」

参加者：55人

7月30日（土）東京・渋谷区

「子どもの発達障害 ～今、大切なことと、将来、役に立つこと～」

参加者：1,757人（オンライン）

8月17日（水） 東京・渋谷区「#8月31日の夜が来る前に」

参加者：147人（オンライン）

* NHKの放送 8月17日、31日 Eテレ「ハートネットTV」

(2023年)

2月4日（土） 愛知・名古屋

「実は身近な発達障害 今こそ知りたい災害のリアル～わたしたちが出来ること～」

参加者：130人

2月10日（金） 東京・渋谷区

「柳田邦男・熊谷晋一郎 “人生の拓（ひら）き方”を考える
～障害当事者が内なる思いを綴る手記から～」

参加者：385人（オンライン）

合計3,220人

(2) こどもの発達相談会

大阪において、ことばや発達の遅れた子どもとその親を対象にした相談会を5回実施した。コロナ対策を施して対面で行い、自閉スペクトラム症（ASD）をはじめ、知的や言語の発達の遅れ、や学習障害（LD）、注意欠如・多動症（ADHD）などについて、

幼児・小学生の相談に丁寧に応じ好評だった。相談件数は延べ70件。

(3) 教員のための「インクルーシブ教育」研修

○Eテレ「u&i」を使った特別支援教育講座

10月12日（水） 青森県六ヶ所村立南小学校

参加者：同校教職員等15人

(2023年)

2月27日（月） 三重県松阪市教育委員会「子ども支援研究センター」

参加者：市内教職員30人
(うち9人はオンライン参加)

(4) ハートカフェ（大阪）

4月9日（土） 大阪・ドーンセンター

「子どもの頃受けた“心の傷”からの回復
～発達性トラウマ障害と複雑性PTSDの正しい理解と治療法～

参加者：43人

(5) 肢体不自由児・者の療育活動

近畿地区の「フレンドシップ・キャンプ」は、新型コロナ感染拡大を考慮して日帰りのバスツアー（神戸どうぶつ王国）に変更し、感染対策を講じて実施した。

予定していた「高木記念山中キャンプ」（山梨県山中湖村）、「雪と遊ぼう 親と子の療育キャンプ」（新潟県南魚沼市）は、新型コロナ感染拡大の影響で中止とした。

(6) 障害者スポーツイベント

○交流教室 パラリンピアンがやってきた！

パラリンピック選手が小学校を訪問し、子どもたちとパラスポーツを楽しみ交流するイベントを6回実施。今年度は、地方でも2回実施した。東京2020パラリンピックのメダリストの参加回もあり、どこの学校でも大変喜ばれた。

5月11日（水） 東京都板橋区立加賀小学校

「車いすバスケットボール」

参加者：420人

6月29日（水） 横浜市あざみ野第二小学校

「車いすバスケットボール」

参加者：581人

9月13日（火） 西東京市立けやき小学校

「陸上」

参加者：683人

12月12日（月） 広島市立安西小学校

「車いすバスケットボール」

参加者：448人

(2023年)

1月23日（月） 高松市立木太小学校

「ブラインドサッカー」

参加者：437人

2月28日（火）東京都北区立第四岩淵小学校 「車いすラグビー」

参加者：247人

合計：2,816人

○第55回スポーツの集い

知的障害のある人のスポーツ競技会。重度の障害者が参加できる全国でも数少ないスポーツ大会で今回はコロナ対策として、会場での参加のほかにリモート参加も可能にして実施。体操と玉入れは来場者リモート参加者両方が参加し、来場者には徒競走にも参加してもらった。

9月7日（水） 東京体育館

会場参加（7施設） 108人
オンライン（22施設） 469人

合 計：577人

○パラスポーツ大会に、事業団賞と参加者への記念品を贈呈

渋谷区主催のパラスポーツ大会に、事業団賞と参加記念品を提供した。

7月24日（日）渋谷オープンパラバドミントン2022 （渋谷区スポーツセンター）

9月3日（土）、4日（日）渋谷区長杯 第5回車いすラグビー大会
（渋谷区スポーツセンター）

（2023年）

2月5日（日）第2回 渋谷区長杯パラ卓球大会 （渋谷区スポーツセンター）

3月5日（日）第3回ボッチャ渋谷カップ （渋谷区スポーツセンター）

※上記4大会に敢闘賞の盾を贈呈。「ボッチャ渋谷カップ」には加えて参加賞を贈呈。

（7） 障害者や福祉への理解を促す事業

○福祉施設の手づくり製品や菓子の販売会

事業団とNHK共済会が2011年度より共同で実施している「福祉施設で作られたお菓子などの販売会」を、東京のNHK放送センターで8回開催した。

また、東日本大震災被災地支援として福島・宮城・岩手各県の事業所が作った菓子や名産品の販売会を3月27日に東京の放送センターで行った。

○福祉の仕事に就く若い人たちに向けたフォーラム

名古屋市で、愛知県社会福祉協議会、NHK名古屋拠点放送局、中日新聞社との共催で、福祉を担う若手や中堅職員が本音で語り合える場を設け、福祉現場の現状と魅力を伝えるフォーラムを開催した。

（2023年）

1月28日（土） 名古屋市 「福祉の星フォーラム」

参加者：97人（会場：21人、オンライン：76人）

(8) 第57回NHK障害福祉賞

障害のある人の体験記録や、福祉関係者、家族などの実践記録を広く社会に伝える「障害福祉賞」。昨年に次ぐ518編もの応募があり、選考の結果、次の実践記録が入選した。

第1部門： 障害のある本人の部門

第2部門： 障害のある人とともに歩んでいる人の部門

応募数： 518編（第1部門：402編、第2部門：116編）

(入選作)

最優秀

「ようこそ！私の世界へ」

毛塚 光沙季（栃木県）

優秀（第1部門）「私にできること」

中条 歩（大阪府）

（第2部門）「元ヤン回顧録」

高橋 唯（茨城県）

（第2部門）「全盲の娘の友達が、母の私に教えてくれたこと」

向井 由美（大阪府）

矢野賞

「自閉症の長男との伴走—成長と希望の軌跡」

西本 功（愛知県）

佳作

3編

入選作品は「第57回障害福祉賞入選作品集」を作成して広く頒布したほか、朗読による音声版（デジタル録音）、点字版の入選集を作成し、全国の点字図書館や視覚障害の応募者などに提供した。贈呈式は12月8日にNHK放送センターで受賞者を招いて実施。一部の受賞者はオンラインで参加した。また入選作品や受賞者の思いは、「ラジオ深夜便」（ラジオ第1）、「ハートネットTV」（Eテレ）、「視覚障害ナビ・ラジオ」（ラジオ第2）などで紹介された。

*NHKの放送

2023年 1月10日 R1 ラジオ深夜便

2月28日、3月1日 Eテレ「ハートネットTV」

3月12日 R2 視覚障害ナビ・ラジオ

(9) NHKハート展

○第27回ハート展

27回目の「NHKハート展」には、障害のある人が綴った詩3,009編が寄せられ、その中から選考の結果50編を入選とした。入選作品は、2023年6月19日から1か月ほどNHKプラスクロスSHIBUYAで展示され、年度内に札幌、大阪、神戸などで巡回展を実施予定。

○第26回ハート展（巡回展）

2021年度に募集し、入選が決定した50編の詩は、東京・渋谷のBunkamuraギャラリーなど全国9か所を巡回した。

また、モニター1台に入選作品をループで映し出す「どこでもハート展」を3会場

で実施した。

全国巡回展 会場・入場者数（9会場）

	会 期	会 場	入場者数
東京・渋谷区	2022年 3月2日（水）～3月13日（日）	Bunkamuraギャラリー	1,289人
佐賀市	6月13日（月）～6月26日（日）	NHK佐賀放送局	236人
秋田市	8月6日（土）～8月19日（金）	NHK秋田放送局	120人
大阪市	9月6日（火）～9月19日（月）	NHK大阪放送局 1階アトリウム	706人
神戸市	10月21日（金）～10月31日（月）	NHK神戸放送局 トアステーション	412人
京都市	11月29日（火）～12月9日（金）	NHK京都放送局	1,208人
札幌市	12月17日（土）～12月25日（日）	NHK札幌放送局	633人
徳島市	2023年 2月3日（金）～2月12日（日）	アミコ	1,144人
青森・八戸市	3月1日（水）～3月12日（日）	八戸市美術館 ホワイトキューブ	1,211人

どこでもハート展 会場・入場者数（3会場）

	会 期	会 場	入場者数
東京・墨田区	2023年2月4日（土）	国技館 ※福祉大相撲開催に合わせて	500人
東京・新宿区	2月11日（土）	新宿住友ビル三角広場 ※手話フェス開催に合わせて	600人
高知市	2月16日（木）～2月19日（日）	イオンモール高知 ※昆虫展開催に合わせて	1,993人

合計 10,052人（1会場平均 838人）

2. 高齢者福祉事業

(1) 第6回 認知症とともに生きるまち大賞

「認知症700万人時代」を目前に控え、認知症の人たちと共に安心して暮らしていくための多様な取り組みの喚起をねらいに、全国から活動事例を募集し、それを専門家、有識者によって選考し表彰した。

応募は20件。その中から本賞・特別賞併せて4件を表彰した。

表彰式は、受賞団体を紹介するハートネットTVの収録に合わせ、NHKスタジオで実施。受賞団体はTeamsで参加した。

<受賞団体>

本賞 ○北見 翼をくださいプロジェクト (北海道・北見市)

○藤里町社会福祉協議会「プラチナバンク事業」 (秋田・藤里町)

○認知症高齢者に「おんぶにだっこ」される地域づくり (愛知・豊田市)

特別賞

○Be supporters! (富山市、神戸市、川崎市、山口市)

*NHKの放送

2023年 1月24、25日 Eテレ 全国「ハートネットTV」

(2) NHKハートフォーラム

4月29日(金祝) 大阪・大阪市「認知症の知識と介護の心得」

参加者：197人

6月19日(日) 東京・江東区「あなたに知ってほしい がんのこと」

参加者：287人(オンライン)

(2023年)

2月14日(火) 東京・渋谷区「認知症バリアフリーサミット」

これまでの「認知症とともに生きるまち大賞」受賞団体が大集合し、認知症バリアフリーのまちづくりについて語り合った。

参加者：585人(オンライン)

*NHKの放送

4月1日 総合 全国

NHKスペシャル「認知症バリアフリーサミット ～本人の声がまちを変える～」

(3) フォーラム(NEP共同事業)

NHKや各種団体と協力して認知症やがん、心臓のフォーラムを6回実施。当事者やその家族、医療、介護従事者など2,685人が参加・視聴した。

○心臓フォーラム2022 ～心不全から心臓を守ろう～

心臓専門医、看護師、そして心臓疾患を経験したゲストと共に、「心不全から心臓を守る」情報をわかりやすく伝えた。

6月5日（日） 東京・千代田区

参加者：538人（会場：45人、オンライン：493人）

※アーカイブ配信視聴：224人

***NHKの放送**

7月2日 Eテレ 全国

TVシンポジウム「心臓病を“見える化”する～リスク発見・予防の新常識～」

○フォーラム「がんと生きる ～こころとからだ 私らしく～」

高齢化の進展によって2人に1人ががんを抱える時代。医療の進歩で5年生存率が向上する一方で、治療が長期化し、副作用や後遺症が暮らしに影響を及ぼす。そうした患者の悩みに向き合うサポーターブケアと、がんになってもそれまでの暮らしが続けられるための医療をはじめ、社会的支援の重要性について医療従事者、支援者、当事者の方が語り合った。

7月24日（日） 石川・金沢市

参加者：370人（会場：145人、オンライン：225人）

***NHKの放送**

9月30日 総合 石川県域

11月12日（土） 千葉・松戸市

参加者：289人

（2023年）

2月5日（日） 東京・江東区

参加者：693人（オンライン）

合計：1,352人

○長寿の未来フォーラム

「記憶の衰え」「フレイル予防」「関係人口」「孤立」など、老いとうどう向き合い生きていくのかを研究者や医療者、認知症当事者の方々とともに、その解決策を探った。

9月25日（日） 愛知・名古屋市

「記憶の見方が変わる ～高齢者心理と認知症治療からひも解く～」

参加者：380人（会場：60人、オンライン：320人）

（2023年）

3月5日（日） 島根・松江市

「フレイルと関係人口」

参加者：191人（会場：68人、オンライン：123人）

合計：571人

(4) 新・介護百人一首 2022

2006年から続けてきた、介護短歌の応募作から百首を選ぶ「NHK介護百人一首」をリニューアルして、2021年度から「新・介護百人一首」と改称してNHKサービスセンターと共催して実施している。

2年目を迎え、若い世代を中心に応募が着実に増え、全国6,427人から13,036首の応募が寄せられた。

3. 福祉情報の提供事業

(1) 福祉ライブラリー活動

「福祉ライブラリー」はNHKの福祉番組をDVDに複製して貸し出すもので、事業団創立以来の基幹事業の一つである。ラインナップも多様で教育や福祉の現場で活用されている。コロナ禍で授業やイベントがオンラインになる中、学校やイベント主催者から様々な需要が寄せられ、これに応えた。

○福祉ビデオライブラリー

2022年度に新しくライブラリー化した番組は26。「ハートネットTV」などテレビの福祉番組や、「ドラマ 命のバトン〜赤ちゃん縁組がつなぐ絆〜」「NHKスペシャル」など視聴者から反響の大きかった番組、福祉の学習に役立つ番組をDVDに複製した。また、事業団が制作した福祉DVD教材もライブラリーに加えた。

年間の貸出利用は2,342本。おもな利用者は、福祉関係の大学・専門学校や、福祉の現場で働く人、障害児の親や障害者本人、介護に携わっている家族、ボランティア団体などである。

利用が特に多かったソフトは、事業団制作の福祉DVD「優しい認知症ケア ユマニチュード」（163本）。つづいて「ひきこもりからの回復」（52本）、「うつ病」（45本）、「発達障害の子どもたち」（37本）、「新しい絆の作り方 特別養子縁組・里親入門」（36本）で、いずれも事業団制作のDVDだった。

2022年度 複製番組数	ライブラリー保有番組数	年間利用数
26番組	657番組	2,342本(枚)

◎これまでの利用数累計：21万487本

○聴覚障害者向け字幕ビデオライブラリー

NHKの字幕放送の拡充にあわせ、聴覚障害者向けサービスとして2003年度から行っている。2022年度は、目撃！につぼん「日本一静かで笑顔あふれるカフェ」や、ハートネットTV「困った！どうする？ろう・難聴者のウィズコロナ」など5番組を字幕化した。

このライブラリーには通算129番組が収められ、全国54の聴覚障害者関係施設と当事業団で貸し出しを行っている。

○視覚障害者のための音声ライブラリー

文芸作品や古典の名作を朗読したNHKの番組をデジタル録音にして、全国45か所の委託施設で貸し出しを行っている。

2022年度はNHKの『ラジオ文芸館』から「芋粥」（嵐山光三郎）、『新日曜名作座』から「山本周五郎・戦国短編集」、『FMシアター』から、令和3年度文化庁芸術祭優秀賞を受賞した「はるかぜ、氷をとく」などを複製した。利用が多かった番組は、『ラジオ文芸館』の「暮れ花火」、『新日曜名作座』の「半七捕物帳2」など。

2022年度 複製作品数	年間利用本数
4番組 8作品	3,074本(枚)

◎これまでの利用数累計： 200万1,653本

(2) 福祉DVD教材「LGBTQ+ ～多様な性を考えよう～」の制作

社会の課題として取り上げられ、考えられることが多くなっているLGBTQ+。言葉の広がりの方で、その意味や当事者達の悩みや生きづらさがなかなか理解されない一面もある。LGBTQ+について知りたい学びたいと考えた人たちへ正しい理解に繋がる知識や情報を当事者や専門家がわかりやすく解説する。

福祉DVD教材（テキストつき）は福祉ビデオライブラリーからの貸し出し用に2枚組で制作し、全国の行政、学校、当事者団体などには、同内容の映像データをオンラインで送付する。

第1巻 「私って“変”？あの人“ふつう”？が気になるあなたへ」

第2巻 「みんなで社会をつくってゆきたいあなたへ」

監修：鈴木茂義（プライドハウス東京 理事、公立小学校非常勤講師）

なお、本事業はJKAの補助金を得て実施した。

(3) 「認知症」などの冊子配布とホームページでの公開

冊子「もの忘れが気になるあなたへ」、冊子「家族が認知症と診断されたあなたへ～おすすめ介護術」をフォーラムの参加者や希望者に配布した。

2022年度で上記2資料の配布は終了し、NHK「きょうの健康」より抜刷したパンフレット「理解が変わる！？認知症の世界」を準備し、配付資料を刷新する。

○「もの忘れが気になるあなたへ」

（監修：小阪憲司 横浜市立大学名誉教授）

認知症はどんな病気か、治療法や予防法、相談窓口などを分かりやすくまとめたもので、発行数は23万部となった。2022年度は317部を参加者や希望者に無料で配布した。

○「家族が認知症と診断されたあなたへ～おすすめ介護術～」

（監修：須貝佑一 認知症介護研究・研修東京センター 研究部長）

認知症の介護のポイントを症状別に解説したもので、発行数は16万部。

2022年度は、45部を無料で配布した。

○「思春期のこころの病～“悩み”と“病”の見分け方～」

（監修：青木省三 川崎医科大学精神科学教室教授）

思春期特有の精神疾患の見分け方と対応について啓発する冊子をホームページで見られるようにし、個人のほか、学校や勉強会をするNPOなどにも利用してもらっている。

○「がん患者のための体と心の緩和ケア

～痛みと悩みをやわらげて自分らしい療養生活を送るために～」

(監修：的場元弘 青森県立中央病院 緩和医療科 部長)

がん患者の体の痛みや心の苦しみを和らげる「緩和ケア」について、病院や相談機関の情報を含めて解説した冊子を作成。ホームページで公開した。

4. チャリティー事業

年間を通じて数々のチャリティーイベントを実施した。

※:物品などの贈呈を行った催し物で、詳細は5. (4)に記載

(1) NHK番組公開チャリティー

催物名	期 日	会 場	売上高等 (千円)
おかあさんといっしょ ファミリーコンサート ＜東京公演＞ (18回)	7月8日～10日 11月4日～7日	NHKホール	(寄付額) 8, 8 0 4 ※2023年度入金
おかあさんといっしょ ファミリーコンサート ＜地方公演＞ (20回)	9月25日～ 2023年2月25日	長野県松本市ほか 全国5か所	
いないいないばあっ！ ワンワンわんだーらんど (16回)	4月3日～ 2023年3月5日	千葉県松戸市ほか 全国6か所	(寄付額) 3, 7 1 9 ※2023年度入金

(2) 事業団企画チャリティー

催し物名	期日	会場	売上高 等 (単位：千円)
創立55周年記念 日本陶芸倶楽部会員 チャリティー作品発表展	5月17日～ 5月22日	柿傳ギャラリー (東京・新宿)	(寄付額) 2, 1 9 6
N響「第9」 チャリティーコンサート	12月22日	NHKホール	(売上高) 1 9, 2 7 4
第55回NHK福祉大相撲 ※	2023年2月4日	国技館	(売上高) 1 8, 3 9 4

5. そ の 他 の 支 援 事 業

(1) 第34回 地域福祉を支援する「わかば基金」

あすの福祉の芽を育てる「わかば基金」は、福祉の分野で地道に活動をしているグループを支援するために設けられたもので、34回目の今回は、「支援金部門」には179グループ、全国の激甚災害の被災地から申請を募った「災害復興支援部門」には10のグループ、「リサイクルパソコン部門」には76グループから申請があった。

「リサイクルパソコン部門」は、NHKやNHK関連団体から不用になったパソコンを寄贈してもらい、新しいアプリケーションソフトを入れた上で必要としている福祉団体に贈呈するもので、NHKグループの社会貢献活動となっている。

選考委員会を経て、全国20グループに総額1,198万円の支援金、13グループに30台のパソコンを贈った。また、支援総額は、パソコン費用を含め1,392万円。なお、初回からの贈呈件数は903に上る。

<支援金部門 支援先> * 17グループ * 支援金総額：1,040万円

北海道当別町	障がい児の命を守り愛する会 浴室工事など	100万円
青森県十和田市	NPO 法人農楽郷ここ・カラダ 作業所改修費	90万円
山形県米沢市	NPO 法人そら 除雪機など	100万円
埼玉県川越市	NPO 法人くるみの木 ガスオープン、エアコンなど	49万円
埼玉県川越市	NPO 法人山正（リンクス川越事業所） ガチャマシン、カプセル	17万円
千葉県野田市	NPO 法人子育てネットワークゆっくっく 収納庫	18万円
千葉県木更津市	NPO 法人ライフサポート波岡 バス（車両）	94万円
東京都町田市	町田市点訳赤十字奉仕団 点字プリンター	50万円
静岡県浜松市	NPO 法人地域創生支援事業団 足踏みシーラー、窯保守	33万円
岐阜県美濃加茂市	地域たすけあいの会 倉庫	72万円
石川県金沢市	NPO 法人びあサポート マルチメディアデイジー制作ソフト	17万円

兵庫県西宮市	認定 NPO 法人兵庫介助犬協会（千葉介助犬協会） 車両	100万円
広島県広島市	NPO 法人風の家 相談室改装	36万円
鳥取県鳥取市	地域コミュニティらるらりら エアコン、学習机、洗濯機など	100万円
愛媛県四国中央市	NPO 法人カノン 楽器（太鼓類）	62万円
愛媛県八幡浜市	NPO 法人浜の会 就労継続支援 B 型事業所浜っ子作業所 スライド丸鋸、ブロア、草刈り機など	40万円
大分県竹田市	NPO 法人 Teto Company 遮音シートなど	62万円

<災害復興支援部門 支援先> * 3 グループ * 支援金総額：158万円

福島県福島市	NPO 法人シャローム 映像制作機材など	18万円
岡山県総社市	NPO 法人こもれびの里 粉碎機、相談室整備など	91万円
愛媛県宇和島市	NPO 法人宇和島 NPO センター 軽トラックリースなど	49万円

<リサイクルパソコン部門 支援先> * 13 グループ * リサイクルパソコン贈呈：30台

埼玉県狭山市	NPO 法人ぶどうの会	3台
神奈川県横浜市	認定 NPO 法人よこはまチャイルドライン	3台
愛知県豊橋市	NPO 法人てのひら	3台
京都府京都市	アクセシブルミーティング研究会	1台
京都府京都市	東山区「不登校・ひきこもりを考える親の会」 “シオンの家”	3台
大阪府大阪市	NPO 法人さをりひろば SAORI hands	1台
奈良県生駒市	音訳グループ生駒やまびこ	1台

和歌山県田辺市	図書館ボランティアの会「ともしび」	2台
兵庫県新温泉町	NPO 法人 Comfort you	3台
兵庫県姫路市	点訳グループふれあい	3台
兵庫県西宮市	西宮ペンの会	1台
愛媛県四国中央市	点字やすらぎ会	3台
福岡県福岡市	福岡絵の会	3台

(2) NHK歳末たすけあい・NHK海外たすけあい

2022年度「NHK歳末たすけあい」「NHK海外たすけあい」を、NHK、中央共同募金会、日本赤十字社と共催で12月1日～25日の間実施した。

「NHK歳末たすけあい」は、共同募金会を通じて、国内の福祉施設やコロナ禍で不安を抱える方など、支援を必要とする方々のために役立てられる。

「NHK海外たすけあい」は、日本赤十字社を通じて、世界各地で、相次ぐ紛争や自然災害、食料危機、感染症の蔓延などに苦しむ人々のために役立てられる。

受付件数・金額（全国集計）

	NHK歳末たすけあい		NHK海外たすけあい	
2022年度	3万4,527件	5億3,726万2,609円	8万3,816件	7億8,708万8,711円

(3) 災害たすけあい

NHK、共同募金会、日本赤十字社とともに、大規模な災害が起こった際に、その都度「災害たすけあい」を実施している。2022年度は、2018年度からの継続も含めて5件実施した。

	期 間	金 額
平成30年7月広島県豪雨 災害義援金	2018年7月12日 ～2022年6月30日	101億7,893万9,168円
平成30年7月豪雨岡山県 災害義援金	2018年7月10日 ～2022年6月30日	143億7,461万5,991円

	期 間	金 額
2022年アフガニスタン地震 救援金	2022年6月27日 ～9月30日	2,926万1,110円
2022年パキスタン洪水 救援金	2022年9月6日 ～11月30日	8,476万8,486円
2023年トルコ・シリア地震 救援金	2023年2月9日 ～2023年5月31日	受付中

(4) 物品などの寄贈

○NHK福祉大相撲による福祉車両の寄贈

2023年2月4日に開催した「第55回NHK福祉大相撲」(入場者3,450人)の純益により福祉車両「福祉相撲号」5台を購入し、これに協力団体からの寄贈1台と合わせて合計6台を障害のある人たちの療育活動や、お年寄りのデイケアなどの活動を行っている施設・団体に寄贈した。

「NHK福祉大相撲」の様子は、2月23日 総合テレビで放送された。

<贈呈先>

社会福祉法人 宏仁会	(青森県)
社会福祉法人 群馬県社会福祉事業団 就労支援事業所めーぷる	(群馬県)
社会福祉法人 長寿会	(石川県)
社会福祉法人 共生福祉会	(京都府)
社会福祉法人 御荘福祉施設協会	(愛媛県)
社会福祉法人 やまなみ会	(熊本県)

(5) 催物への招待

事業団の催し物の開催時に、視覚障害の人や知的障害のある人など480人を招待した。

12月22日(木) N響「第9」チャリティーコンサート NHKホール
招待者：140人

(2023年)

2月4日(土) NHK福祉大相撲 両国 国技館
招待者：340人

合計：480人

6. 広 報 活 動

事業団が主催するフォーラムや催し物情報、福祉ビデオライブラリーの新着情報、これまでの活動記録などをホームページで掲載するとともに、メールマガジンやSNSでも配信し、事業団の福祉活動への理解と協力を求めた。

（１）ホームページ、メールマガジン等による広報強化

○事業団の活動をより多くの人に知ってもらい、活用してもらうため、「最近の活動内容」や、「募集事業の案内」、「福祉ビデオライブラリーの新着情報」などをきめ細かく提供するとともに、ビジュアルでわかりやすい画面構成に努めた。また、若い世代にも福祉情報が届きやすくすることを狙い、Instagramによる情報提供も開始した。

主な掲載内容は、

- ・事業団の「催し物の予定」や「実施事業の報告」
 - ・事業団が制作した冊子の内容。「認知症」や「がん緩和ケア」など
 - ・「NHK障害福祉賞」などの入選作品の紹介
 - ・「わかば基金」で支援した福祉団体の活動をレポートする「わかばなかま」
 - ・「福祉ビデオライブラリー」今月の新作、おすすめDVD
 - ・寄付について
- ・・・・・・・・など

○福祉DVD「あなたにしてほしい がんのこと」の動画の一部や、「認知症とともに生きるまち大賞」受賞団体の活動映像の動画をホームページで配信し、要望に応えた。

（２）広報物の作成・配布

NHK厚生文化事業団年報「支えあい 共に生きていくために」を発行して、事業団の福祉活動への理解促進を図った。

7. 内部統制の整備・強化とコンプライアンスの徹底等

事業団はNHKグループの一員であり、社会福祉法に則り、寄付で運営される社会福祉法人であることから、高い説明責任、透明性ある事業運営が強く求められている。引き続き内部統制の整備・強化とコンプライアンスの徹底等に努めた。

(1) 内部統制の整備・強化とコンプライアンスの徹底

○厚生労働省の指導監査

2022年12月に厚生労働省の定期指導監査を受検した。求められた改善点について、いずれも速やかに是正措置を講じることとし、結果を報告した。

○外部の専門団体との連携

外部の専門団体との間で顧問契約を結び、適正経理、法務、労務・安全管理、情報セキュリティ等の重点リスクについて逐次助言を得て、客観性や合理性、専門性を担保し業務を進めた。

NHKグループの「統合ネット」に参加して、NHKと連携して情報セキュリティの整備に努めた。財務管理は社会福祉法人会計基準に対応した財務システムにより行った。

○内部監査と会計監査

内部監査についてNHKビジネスクリエイト委託による実地監査を受検し、また、会計監査は、監査法人の専門チームに委託して行った。カバナンスの徹底に引き続き努めている。

○業務の適正を確保するための体制の評価

NHKグループの仕様に基づき、内部統制について「統制環境」「リスクの評価と対応」「統制活動」「情報と伝達」「モニタリング」「ITへの対応」の6つの観点から整備状況および運用状況の有効性を評価した。また、業務上重要なリスクを抽出したうえで、必要な対応（内部統制）を実施しているか評価した。評価の結果、2023年3月31日時点における事業団の内部統制は、概ね有効であると判断された。

(2) 「働き方改革」の推進等

「働き方改革」に継続して取り組み、より創造性を発揮できる環境の整備に努めた。毎月の「働き方総点検」で、時間外や勤務休暇取得日数、業務量のバランスなどを把握し、適正な勤務管理に努めた。事業団の必須目標とした勤務休暇7日以上を取得を全員が達成した。

新型コロナウイルスの感染拡大に対処するため様々な感染防止策を講ずるとともに、在宅勤務については、多様な働き方を進めるため、就業規則に明記して制度化している。

(3) 各種研修の実施

NHK放送研修センターが実施する研修や、外部講師を招いて事業団独自で開催した研修などを通して、全役職員でリスクマネジメントの強化に努めた。

8. 後援・協賛した事業

毎年、福祉、教育、医療団体などが実施する研修や啓発事業、また美術、スポーツ団体などが福祉目的で開催するチャリティー事業に積極的に協力してきた。昨年より増加はしたものの、引き続きコロナウイルス感染症の影響を受け、本部・支局合わせて101件（昨年度は68件）の事業の後援、協賛にとどまった。

○福祉関連の催し（72件／昨年度は36件）

「世界自閉症啓発デー2022」「第9回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」
「高校生ボランティア・アワード2022」「家族の会「わかば」の講演会」「遷延性意識障害者を診る歯科医から一家族会へのメッセージ」などを後援、協賛した。

○チャリティー催し物（29件／昨年度は32件）

「国展」「春陽展」「東光展」「二科展」「三多摩総合舞踊発表会」「チアリーディング日本選手権大会」「KEIRINGランプリ2022」「手工芸作品展」「チャリティー全国大陶器市」（13か所）を後援し、その益金から事業団へ寄付をいただいた。

9. 寄 付 金

当事業団への寄付金には2種類ある。個人や団体からのご寄付である一般寄付金と、当団が主催、後援、協賛したチャリティー事業からのご寄付であるチャリティー寄付金である。

2022年度は、

一般寄付金	187件	6,467万3,334円
チャリティー寄付金	46件	2,987万3,906円
寄付金総額	233件	9,454万7,240円

となった。

10. 賛 助 会 員 ・ 維 持 会 員 等

賛助会員は一般法人に広く協力を求め、本年度は1団体1口の新規入会があった。一方で、退会1団体1口の申し出もあり、結果として105団体から1,650万円の支援を受けた。

個人からの継続寄付者を含む維持会員等については、NHKおよびNHK関連団体役員、NHK旧友会員など725人の方々の協力を得て、その額は242万円となった。

〔特別賛助会員〕

- | | | |
|--------------|---------|----------------|
| ・三栄製薬 | ・第一生命保険 | ・ノービスハイエストサービス |
| ・日立製作所 | ・富士通 | ・みずほ銀行 |
| ・NHKエンタープライズ | | |

〔賛助会員〕

- | | | |
|---------------|----------------|-----------------|
| ・愛知県農業協同組合中央会 | ・葵設備工事 | ・アットホーム |
| ・アフラック | ・アーチェリープロダクション | ・アーティストハウスピラミッド |
| ・池上通信機 | ・石川近鉄タクシー | ・岩谷産業 |
| ・港北メディアサービス | ・エクサート松崎 | ・荏原冷熱システム |
| ・遠藤波津子美容室 | ・岡谷鋼機 | ・勝亦電機製作所 |
| ・加藤電気工業所 | ・川崎重工業 | ・川嶋印刷 |
| ・木下サーカス | ・近物レックス | ・近鉄タクシー |
| ・グリーン・アート | ・KDDI | ・国際自動車 |
| ・コメリ | ・近藤産興 | ・サンセイ |
| ・シーズコーポレーション | ・ジーズ・コーポレーション | ・ジェイアール東海高島屋 |
| ・島精機製作所 | ・小学館 | ・白川プロ |
| ・スタービーイング | ・スマートコンセプト | ・住友電気工業 |
| ・住江織物 | ・全国大陶器市振興組合 | ・全国陶器祭り振興会 |
| ・ゼンリン | ・総合システム管理 | ・大和自動車交通 |
| ・大和証券 | ・大和リース | ・タカラベルモント |
| ・ツムラ | ・帝産キャブ名古屋 | ・帝都自動車交通 |
| ・東芝インフラシステムズ | ・東新紙業 | ・名古屋三越 |
| ・西川 | ・日産自動車販売 | ・日本医師会 |
| ・日本音楽事業者協会 | ・日本音楽著作権協会 | ・日本ガイシ |
| ・日本交通 | ・日本たばこ産業 | ・日本電気 |
| ・ネイチャー | ・野村證券 | ・バーニングプロダクション |
| ・花岡無線電機 | ・HSレストラン | ・阪急電鉄 |
| ・PL東京健康管理センター | ・日立国際電気 | ・福建社 |
| ・丸一鋼管 | ・丸徳産業 | ・三井住友信託銀行 |
| ・三菱UFJ信託銀行 | ・明電舎 | ・メディア21 |
| ・モリタホールディングス | ・森平舞台機構 | ・ヨコシネディーアイエー |
| ・吉本興業 | ・リンレイ | ・WOWOW |

- ・NHKアート
- ・NHKエデュケーショナル
- ・NHKサービスセンター
- ・NHKビジネスクリエイト
- ・共栄サービス
- ・日本放送協会共済会

- ・NHKインターナショナル
- ・NHKエンジニアリングシステム
- ・NHK出版
- ・NHKプロモーション
- ・日本国際放送
- ・放送衛星システム

- ・NHK営業サービス
- ・NHKグローバルメディアサービス
- ・NHKテクノロジーズ
- ・NHK放送研修センター
- ・NHK学園

(五十音順)
(2023年3月31日現在)

1 1. 役員

(1) 役員体制 (2023年3月31日現在)

理事長	松崎 和義	
常務理事	石川 信	
理事（非常勤）	上野 一彦	（東京学芸大学名誉教授）
理事（非常勤）	伍藤 忠春	（公益財団法人日本パラスポーツ協会評議員）
理事（非常勤）	佐々木 桃子	（社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会理事長）
理事（非常勤）	平 匠子	（NHKメディア総局第1制作センター長）
理事（非常勤）	田中 良憲	（NHKメディア総局展開センターエグゼクティブ・リード）
理事（非常勤）	中村 吉夫	（社会福祉法人聴力障害者情報文化センター理事長）
理事（非常勤）	橋本 正明	（公益財団法人社会福祉振興・試験センター理事長）
理事（非常勤）	松本 浩司	（株式会社NHKエンタープライズ代表取締役社長）
監事（非常勤）	阿部 陽一郎	（社会福祉法人中央共同募金会常務理事）
監事（非常勤）	藤川 英彦	（株式会社NHK出版取締役）

(2) 理事および監事に支払った報酬等の額

役員区分	報酬の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額		対象となる 役員数（人）
		定額部分	変動部分	
理 事 (非常勤役員を除く)	31,446	22,836	8,610	2人
非常勤理事・監事	230	230	0	10人

※NHKおよびNHK関連団体の役職員としての立場を有する非常勤理事3人・非常勤監事1人に対しては、報酬を支払っていない。

※上記以外の非常勤理事5人・非常勤監事1人に対しては、理事会に出席の都度、定額を支払っている。

12. 2022年度末常勤総数

13人

近畿支局については、1971年の設立以来、各種の福祉事業を地域に根差して展開してきた。これまで支局が続けてきた活動の成果を踏まえ、今後は本部から近畿地方へ福祉事業を展開することを前提に、2023年3月31日をもって閉所した。